

視察報告書

発行No.	S-231004
作成日	2023.10.10
作成者	佐原充恭

視察地	埼玉県蓮田市 蓮田市役所	日時	2023.10.4(月) 13:00~14:30
視察テーマ	PLEATEU(プラトー)を活用した防災の取組について		
視察目的	PLATEAU(国土交通省が主導する3D都市モデルのオープンデータ)を利用した先進的な防災の取組を学ぶ。		
視察メンバー(敬称略)	市議:揚張慎一、谷口睦生、三田真弥、鈴木正人、加藤廣行、鈴木絹男、佐原充恭 随員職員:前田武寛、酒井聡		

出典:当日頂いた資料及び国土交通省HP

1. Project PLEATEUの概要

・国交省が主導する3D都市モデル整備・活用・オープンデータ化プロジェクトで、都市活動のプラットフォームデータとして3D都市モデルを整備し、様々な領域でユースケースを開発していく→蓮田市はこのユースケースに参画。

2. PLEATEUの特徴

- ①オープンデータ:標準化されたオープンフォーマット(CityGML)で、G空間情報センターからDLすれば誰でも自由に使用できる。
- ②精度管理されたデータ:公共主体が作成する地図データであり、精度管理された座標軸を持っている。
- ③デジタルツイン・DX施策:建物や道路等の位置関係が正確なので、現実都市に基づく開発(デジタルツイン)や仮想都市の構築が可能。

3. 蓮田市の取組み:「住民個人の避難行動立案支援ツール」の開発

蓮田市は元荒川の氾濫により、市内のほぼ全体が浸水深50cm以上となり、最大3m以上になることが想定される。氾濫時には避難ルートが遮断され、建物が孤立する可能性もある為、住民の水害リスクへの理解と早期の避難行動促進が重要な課題となっている。そこで、3D都市モデルをベースに、浸水が時系列に従い徐々に広がっていく様子を三次元化するとともに、浸水範囲に応じた適切な避難ルートを検索・可視化する当該システムを開発した。



地域住民を対象とした実証結果と課題

'22.12.17 黒浜西自治会館にて、西新宿地区及び西城地区住民17名が参加し、水害リスク説明、システム操作説明等を行った。

項目	成果	課題
避難ルート検索システムの操作	出発地を設定し、避難所までのルートと所要時間、距離が把握できた。	ルートの勾配が考慮されない為、要配慮者には困難な場合がある。裏道が検索されない。
時系列浸水水位の可視化	水害を自分事として捉え、早期避難の必要性が理解された。	特になし。
3D都市モデルの自治体業務での活用	職員より、防災分野で有効との意見があった。	当該システムを広く市民に周知し、市HPでWEB公開するとよいとの意見があった。
Re:Earthについて	浸水データや3D都市モデルを3D地図上で可視化できた。	地図上で自宅を探す事に苦勞する様子が散見された為、より簡単に出発地点を設定できる機能が欲しい。

4. その他の今後の課題、展開

・庁内理解の促進、その他の事業課題解決への横展開、要求されるPCスペックへの対応、国庫補助の活用とユースケース開発、庁内における公開、地図情報システムとの連携、市民による活用。

所感: 蓮田市が取り組んだ避難行動立案支援システムだけでなく、様々な用途に活用できる可能性を感じた。庁内及び市民による活用は必須ではないか。刈谷市においては、現在公開されている地図情報サービス「かりマップ」内の水害情報マップは、浸水の深さを表示できるので、このシステムとPLEATEUを連携できないかと感じた。



視察報告書

発行No.	S-231005
作成日	2023.10.10
作成者	佐原充恭

視察地	千葉県千葉市 千葉市役所	日時	2023.10.5(水) 10:00～12:00
視察テーマ	スマートシティ推進の取組について		
視察目的	同市のスマートシティプロジェクトについて学び、刈谷の取り組みの参考とする。		
視察メンバー (敬称略)	市議: 揚張慎一、谷口睦生、三田真弥、鈴木正人、加藤廣行、鈴木絹男、佐原充恭 随員職員: 前田武寛、酒井聡		

出典: 当日頂いた資料及び千葉市HP

1. 千葉市の取り組みの方向性～5つのスマート～

目指すスマートシティの実現に向けて、あらゆる分野を市民(利用者)目線で、

1. 暮らしがスマート!
2. ビジネスがスマート!
3. 学びがスマート!
4. まちがスマート!
5. 市役所がスマート!

上記の5つに分類し、市民ニーズや地域課題に基づく様々な取組を分野横断的に順次実施していきます。



①の取り組み事例

・ウェアラブル端末からの収集データを活用した特定保健指導。

②の取り組み事例

・ICTやロボット技術を駆使したスマート農業に対する支援。

③の取り組み事例

・デジタルミュージアムの開催。

④の取り組み事例

・避難所への太陽光発電設備、蓄電池の設置。

⑤の取り組み事例

・市役所手続きのオンライン化
→年間手続件数の約8割で可能。
・「あなたが使える制度お知らせサービス～For You～」
→市が保有する市民情報を活用し、各制度の受給対象者となりうる方にLINEで知らせる。

2. ⑤市役所のスマート化の実現に向けた取り組み

1. 現状と課題	2. 目指す姿
<p>市民が市役所に合わせなければならない</p> <ul style="list-style-type: none">市役所の指定する場所と時間では手続きができない。窓口での丁寧な説明などのサービスを希望する市民は、窓口で待たなければならない。窓口での説明が不要な市民でも、窓口に行かなければならない。	<p>行かなくていい、待たなくていい、使いやすい市役所</p> <ul style="list-style-type: none">従来の窓口に加え、いつでも、どこからでもできる行政手続親切で分かりやすく、一度で済む申請様式デジタル活用による多様な相談手法への対応
<p>申請漏れによりサービスを受けられない可能性がある</p> <ul style="list-style-type: none">忙しくて時間のない方が予防接種や健診の申請を忘れてしまう。制度を知らなかったことにより、制度利用の機会を逃してしまう。制度について検索したり、問い合わせることが負担	<p>容易に必要なサービスが受けられる市役所</p> <ul style="list-style-type: none">一人ひとりのニーズに合わせた情報の提供利用手続の負担感なく、行政サービスを提供

R5年度の主な取り組み

- より多くの方がオンライン手続きに接する事ができるよう、更なる広報を行う。
- 目的の手続きに容易にたどり着ける仕組みの検討を行う。
- お知らせ対象を拡充するとともに、更なる拡充を検討する。
- より多くの方にお知らせが届くよう、LINEに加え、メールの通知機能を追加する。
- デジタルデバインド(ITを使える人と使えない人の間に生じる経済格差)対策として、スマートフォン講座や相談会を行う。

3. サービス実装の進め方～スモールスタートからのステップアップ～

・地域課題や市民ニーズの把握→民間技術とのマッチング→プロジェクト化(スマートシティ実証補助事業(民間の実証実験に経費補助(対象経費の1/2、上下5百万円)活用)→サービスの実証、実装。

目指す姿: 各サービスを組み合わせ、複合的サービスの構築

例: それぞれのサービスのデータを連携させ、一つのアプリで予約から支払いまで完結させる。

所感: スマートシティの「行かなくてもいい、待たなくていい」取り組みは、市民の利便性を向上させる半面、行動範囲を狭めたり、人流を停滞させる可能性がある。市民の行動や運動を促す取り組みもバランスよく盛り込み、配置していく事が重要だと感じた。また、各種の受給制度や補助制度は複雑かつ多岐に渡り、一般市民にはわかりにくい為、「あなたが使える制度お知らせサービス～For You～」は大変良い取り組みだと思う。デジタルデバインドに配慮しつつ、刈谷市でもぜひ導入すべきだと感じた。

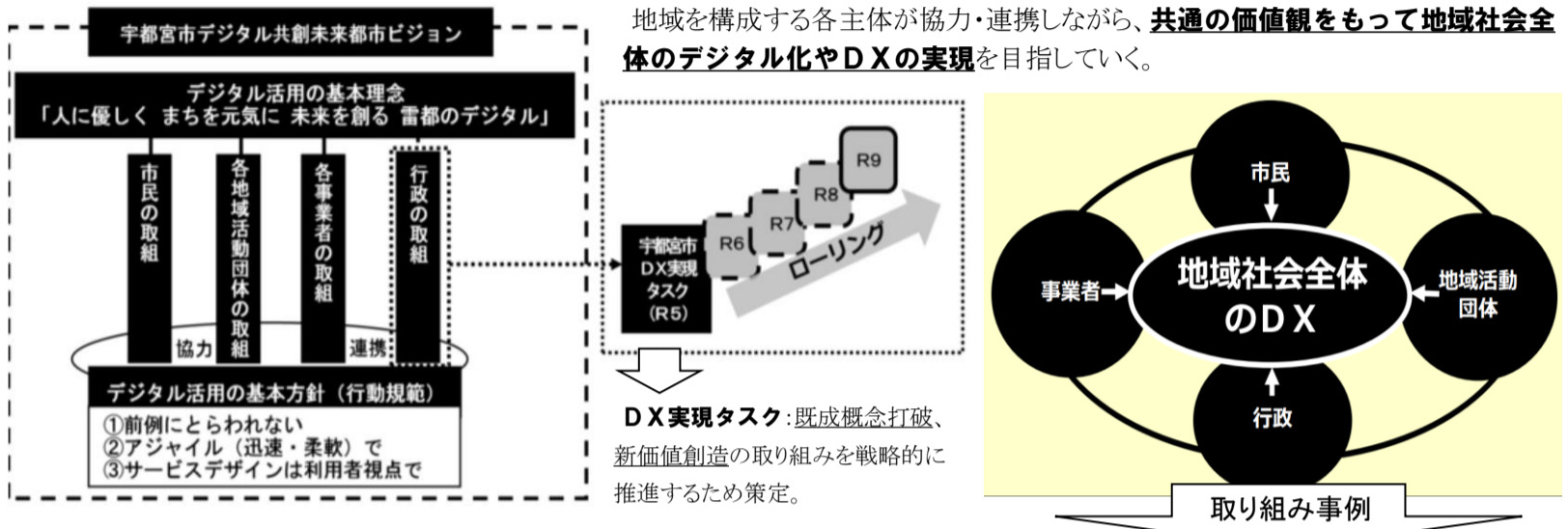
視察報告書

発行No.	S-231006
作成日	2023.10.10
作成者	佐原充恭

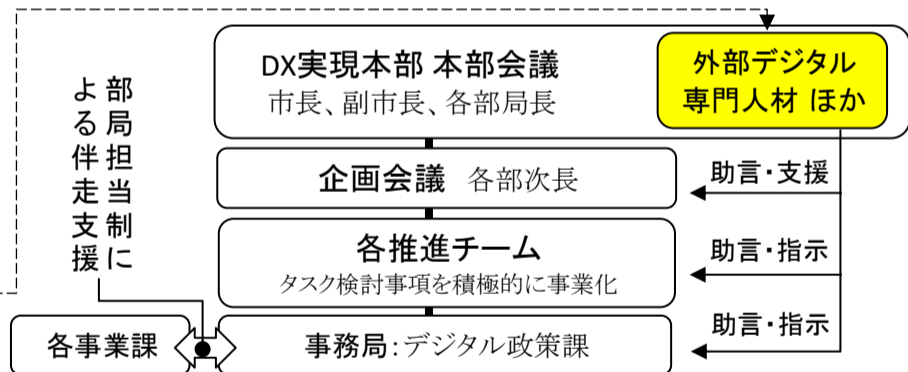
視察地	栃木県宇都宮市 宇都宮市役所	日時	2023.10.6(金) 10:00～11:30
視察テーマ	DX推進の取組について		
視察目的	同市が進めるDX(デジタルトランスフォーメーション)の手法等について学ぶ。		
視察メンバー(敬称略)	市議: 揚張慎一、谷口睦生、三田真弥、鈴木正人、加藤廣行、鈴木絹男、佐原充恭 随員: 前田武寛、酒井聡		

出典: 当日頂いた資料及び宇都宮市HP

1. 宇都宮市のDXのビジョンと取組みについて



2. 行政DXの実現に向けた取組み



3. 目標設定(市民が「変わった」事を実感できる目標。5年以内の達成を目指す。)

	市民視点	行政視点
サービス	①スーパースmartシティ実現に向けたデジタルサービスの提供等 デジタルサービスを享受している市民の割合: 66%	
手続・業務	②スマート窓口の実現 行政手続きオンライン化数: 500手続 ※対面等規制があるものを除く全ての手続	⑤業務のデジタル変革 AI・RPA活用業務数: 120業務
人	③デジタルデバイド対策・デジタル人材育成 宮デジサポーター: 120人	⑥庁内DX人材の育成・確保 ノーコード開発ができる職員: 300人
環境	④デジタル社会基盤の強化 マイナンバーカード普及率: 100%	⑦スマートワークの実現 執務室改善: 本庁舎全フロア
データ	⑧データの利活用 行政課題の解決に資するデータを活用した伴走型モデル事業数: 10件	

所感: 宇都宮市のDXの取組みは、1月に視察したスーパースmartシティ同様、体系的かつ組織的で、内容もよく練られていた。目標値を設定をし、前向きに取り組む姿勢も好感が持てる。取組みのまとめの文言『デジタル技術が行政サービスの「即時性」「確実性」を高め、市民生活の質が高まる。』には感銘を受けた。こうした視点を持ち、刈谷市もDXを推進願いたい。